

ミカン 草でうまくなる

5



7月下旬のミカン園。ヒメイワダレソウに覆われている

ヒメイワダレソウに恋をした

和歌山・岩本 治

連載では、これまでいろいろと試してきた草を紹介してきました。今回は、そのなかで一番気に入っているヒメイワダレソウについて詳しく紹介します。

ヒメイワダレソウはクマツヅラ科で南アメリカ原産の多年草です。タネがでないのが最初は苗を買う必要がありますが、グラウンドカバープランツとして河川敷などで利用されているので安く手に入ります。私はインターネットで40ポット5000円で購入しました。タネで増やせないぶん少し手間はかかりますが、これまでの草のデメリットを克服するような草です。8年間試してみてもわかってきたことを、以下にまとめました。

いいところがたくさんある

①広がるスピードが速い

春～秋は緑のまま、絨毯のように広がります。シバの10倍といわれるス

ピードで、ランナーを伸ばして広がっていきます。1年で一つの苗から畳2枚分広がったこともありました。雪が降ったり氷点下になったりする寒い冬は地上部が枯れますが、地下部は残り春になるとまた出てきます。

②土壌条件を選ばず、養分競合しない
土壌条件に合わない、増やしたい草が他の雑草に負けて消えてしまうことがよくあります。たとえば、肥料分の多い土壌にナギナタガヤを植えた

こともありました。その点、ヒメイワダレソウは肥料の多少やpHも気にせず増やせます。間に他の雑草も生えませんが、6～11月のミカンの生育期はヒメイワダレソウだけになり、他の雑草を抑えてくれます。また、果実と養分競合する心配もありません。

③草丈が低く樹に巻きつかない
基本的に草丈は10cmほど。日陰をつくることも果実に傷をつけることもありません。草丈が低いので刈ったり倒したりする必要もないです。

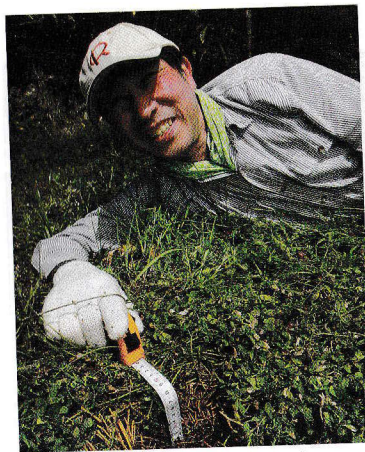
はふくして伸び、段差を越えて広がります。つる性でない草はふつう傾斜を上へ伸びることはないのですが、ヒメイワダレソウは上方向にも伸びていきます。それでいて、ヘアーリーベッチやつる性の草のようにミカンの樹には絡みつかず、草を引き下ろす作業が不要です。

④踏圧に強い

日々の作業で草の上を歩いても問題なく、クッションのようにフカフカ。踏まれると草丈が低くなったり、葉が小さくなったり枯れたりする草が多いのですが、ヒメイワダレソウはオオバコのように丈夫です。私の園には多いときは1日100人の視察者が訪れて、ヒメイワダレソウの上を踏み荒らしませんが、これまで枯れたことはありません。しなっとしても数日で復活します。

干ばつにも大雨にも強い

干ばつがひどかった2017年と翌



大好きなヒメイワダレソウと筆者
(赤松富仁撮影、以下もすべて)



植えてから7年目のヒメイワダレソウの下をかき分けてみると、10cmほど茎の層があった。地中には太い根が下向きに深く張るので、表層から地下30cmあたりまでに多いミカンの根と養分競合しにくい

